公明党　**鈴木謙一郎**

市街地以外のにぎわい創出　12

問本市の郊外部は自然環境や大学などの地域資源が豊かであるが、これらを生かして地域のにぎわいの創出を図ることについて、市はどのように考えるか伺う。

答産業観光部長　郊外部にある地域の伝統行事や自然環境・風土は、地域の特色ある資源といえる。この他、文教施設や地域ボランティアも地域の特色を表した独自のものと捉えられる。こうした地域資源を、イベントなどを通して周知・活用することは、にぎわいの創出に寄与すると考える。また、こうした取り組みを地域住民や関係団体等が自主的に持続できる体制を整えることが、地域の活性化、地域独自のまちづくりにつながると考える。

関市街地以外のにぎわい

初雁自由政令会　**村山博紀**

高齢者対策の最優先課題　13

問健康寿命の延伸に向け、高齢者が活躍できる居場所づくりや健康づくりと社会的な活動への参加促進は重要だ。超高齢社会対策の推進に向けた最優先課題の取り組みは。

答市長　これからは、高齢者がこれまで培ってきた知識や経験、能力を生かし、地域で生きがいや役割を持って活躍できることが重要だと考えている。

本市としては、人と人とのつながりを強化し、市民一人一人が高齢者を支え、また、高齢者自身も支え合い、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、すこやかプラン・川越に基づき、引き続き各種施策を推進していく。

関高齢者の生きがいづくり

川越志政会　**粂　真美子**

ペット共生社会に向けて　14

問いまやペットは家族の一員だ。苦手な人に配慮しつつ、ながら見守りわんわんパトロールやペットロスへのケアなど市の事業に共生の視点も必要と考えるが、見解は。

答栗原副市長　ペットとの共生は、飼い主の心豊かな暮らし、運動習慣や社会参加の維持・向上につながる一方、高齢化による飼育困難、動物虐待、不適正飼育による地域トラブル等の課題があるので、動物の愛護と適正飼育について市民の関心と理解を深める取り組みが必要である。このような認識の下、法令に基づく適正飼養の推進、動物愛護の普及啓発を行った上、市、市民、飼い主、関係団体等が連携・協力し、ペット共生社会を目指したい。

関ジュニアリーダー　　関ペット共生社会

政策フォーラム　**片野広隆**

公正な教科書採択の徹底を　15

問教科書編集を務め利害関係者となる教育委員の教科書採択への不正関与について疑念が寄せられている。高校を含め全ての採択から不信を招く教育委員の除斥措置を。

答教育長　当該委員は、小学校生活科の編集に携わっており、県のガイドラインでは、その種目の教科書採択に関わらないという規定になっているが、疑念や不信感が生じないよう、小学校さらには中学校の採択にも関わらないようにしてきた。今後も、公正性・透明性を図るため、当該委員を教科書採択の場に出席させずに採択を進める。市立川越高等学校の教科書についても、教育委員会の採択であるため、中学校と同様に対応していきたい。

関学校教育の現状と課題

公明党　**桐野　忠**

農業後継者不足への改善策　16

問農地保全は、治水という関係からも重要だと思うが、農業者の後継者不足・農地引き受け手不足に対する市としての改善策について伺いたい。

答産業観光部長　全国的な農業者の高齢化、後継者不足の背景から、担い手の確保、育成については、重要であると認識している。耕作しやすい営農環境を整えるほ場整備事業と担い手への農地の集積、集約を進める農地中間管理事業を併せて推進するとともに、農作業の効率化等を図るスマート農業技術の研修会の開催や技術導入に係る補助を通じて、担い手の生産性の向上や規模拡大に向けた取り組みを支援していく。

関農地保全の取り組み　　関クールシェアと給水

公明党　**小ノ澤哲也**

ワクチンの公費助成を！　17

問何度も取り上げている「帯状疱疹ワクチンの公費助成」であるが、県内でも、既に半分の市が公費助成に乗り出している。本市の公費助成に対する考えは？

答保健医療部長　国が定期接種化の判断をしていない段階での任意接種のワクチンの公費助成は慎重な判断が必要と考えているが、直近の国の審議会の議論から、定期接種化にはまだ一定程度時間を要することが推察される。県内の半数近くの自治体で助成が開始されている点および市民の要望が強まっている点などを踏まえ、県内で先行実施している自治体の接種状況や課題等を把握し、公費助成について財源の確保の問題も含め検討したい。

関帯状疱疹ワクチン